

MHIエアロスペースシステムズ株式会社
取締役社長

清水 将一



寸言

ソフトウェアで航空宇宙産業に貢献を

この度は、伝統のある日本航空宇宙工業会（SJAC）に入会させていただくことになり、大変光栄に感じております。弊社をご存じない方もおられると思いますので、まずは簡単に紹介させていただきます。

弊社は名前の通り、三菱重工業株式会社（MHI）のグループ会社で、1986年12月に創立しております。弊社の主な業務はホームページ（<http://www.masc.co.jp>）などにもありますが、ソフトウェアを主体としたシステムの設計、開発、ソフトウェアの設計、製造、試験や関連する各種解析業務などが主なものです。

基本的には親会社である三菱重工のシステム及びソフトウェアの設計開発の部分を機能的に支援することが主な業務であり、SJAC様との直接的な関連はあまりございませんでした。しかし、近年弊社も民間航空機関連で経済産業省様や宇宙航空研究開発機構（JAXA）様の元でDO178、DO331ⁱなどの認証プロセスに関する事業でいろいろとご一緒に仕事をさせて頂く機会が増え、やはり、SJAC様の会員であった方が良いと考え、入会させて頂くことになりました。よろしくお願い致します。

弊社は200名弱の会社ではありますが、ほぼ社員の90%以上がシステム開発やソフトウェア設計開発の専門技術者集団です。表題にもありますように、弊社の想いは“ソフトウェアを中心とした技術で社会に貢献していきたい”ということです。もともと、世界的に見れば航空宇宙、防衛関連のソフトウェア開発が事務系のソフトと並んで、ソフトウェア技術をけん引してきました。「ソフトウェア工学」という概念が生まれたのも、1968年頃のNATO

に関連した会議であると言われていました。当時から欧米では軍用のソフトウェア開発を効率的に進めることが課題となっていました。残念ながら当時の日本は、まだ航空宇宙産業は緒についたばかりであり、一般産業としてのソフトウェア産業も大きく立ち遅れていました。最近では、自動車産業においても自動運転をはじめとして大規模なソフトウェア開発が必要となっており、いわゆる組込み系と呼ばれるソフトウェアに関心が集まっています。本来は組込み系ソフトウェア開発では老舗である航空宇宙分野でも、今後、装備品の高性能化、高機能化やグローバル展開ではソフトウェアの比重が高まり、日本企業においても、その開発力は必須のものとなると思います。また、航空宇宙分野では従来から高品質、高信頼性のソフトウェアが要求されており、そのための規格や認証制度などが整備されています。弊社はそれらに対応して関連する企業様を支援するための活動として、コンサルティングや講習会、教育研修などに力を注いでおります。また、当然ですが本業のソフトウェア開発でも御支援できればと思っています。このような活動を通して、弊社としては、防衛、航空宇宙の分野で長年培ってきた技術で、少しでも航空宇宙産業界の発展に寄与できればと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

i DO178、DO331：米国RTCA（Radio Technical Commission for Aeronautics）発行の航空機システム及び装置で使用されるソフトウェアの認証についてのガイドライン